第１２５回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年１０月６日提出）

１．題　目：ＰＲＯＧ報告会

２．日　時：平成 27 年 9 月 28 日（月）　16：00～17：15

３．場　所：事務局第 2 会議室（事務局 3 階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員，特に各部局の教務担当の方

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　[　　]（1）　教員の教育活動に関するもの
　[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
　[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
　[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
　[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　本年４月、各学部１年生を対象に実施した基礎力テスト（ＰＲＯＧ）の分析結果を報告します。全体傾向とともに学部毎の特徴や他大学との比較等を踏まえて、本学１年生の汎用的技能の状況と教養教育・専門教育における留意点等を整理します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　松村 直樹　氏，石川 純一　氏（株式会社リアセック）

【内容】　趣旨を参照

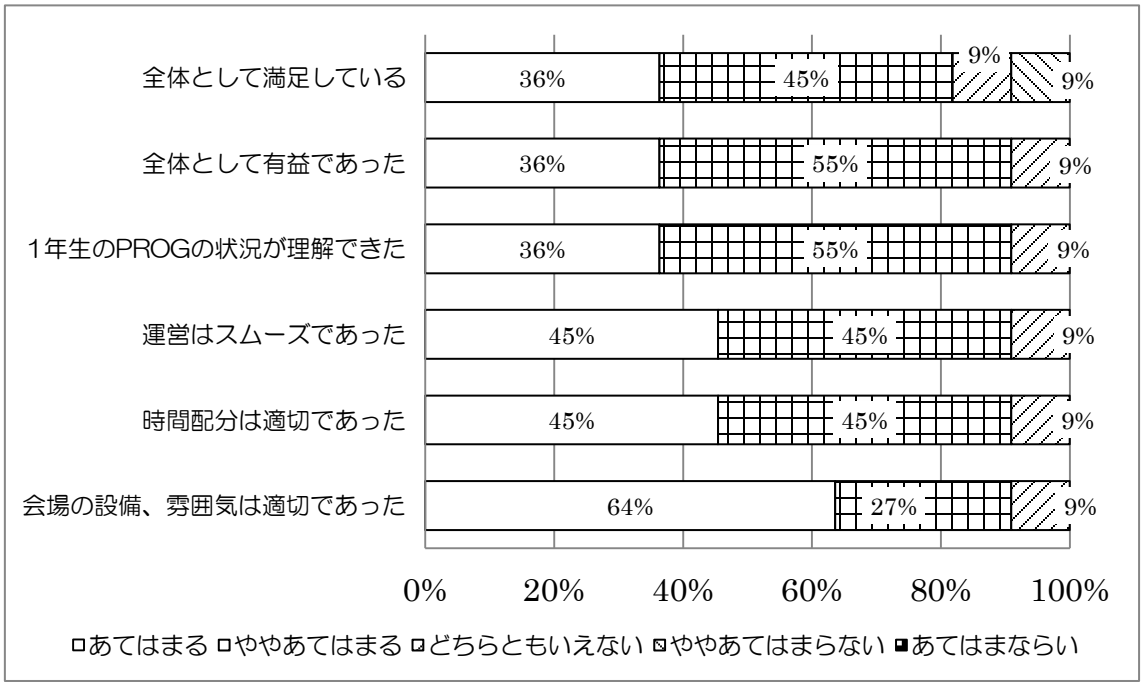
９．参加者：１３名（受講証発行対象者：１３名）

（内訳）

所　　属	人　数
教育学部	2
医歯薬学総合研究科（薬系）	1
工学研究科	3
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
大学教育イノベーションセンター	1
医歯薬学総合研究科事務部	1
学生支援部	3
計	13

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：１１名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 教育にどのように役立てれば良いのかが分れば良いと思うのですが，難しい問題であると思います。（教育職員）

・ コンピテンシーは 4 年間通じて計画立案力と統率力が低い点を今後，実習の説明会，事前指導の説明会，教職講話等で学生に伝えて意識を高められるようにできればと

思う。教育職員）

・　予習できるとよかった。（教育職員）
・　アルバイト，部活動と能力伸長との相関はとても興味深かった。（教育職員）
・　データの取り扱い方で（解く時間も含め），同じデータも傾向が変わり難しい。（教育職員）

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・　各専門学部に関連した社会人のデータによる問題を早く作成してほしい（教育職員）

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

本ＦＤでは、初年次の開始時に行ったＰＲＯＧについて、他国立大学との比較や年次変化、大学ＩＲコンソーシアムの学修行動調査等との関連も含めて詳細な報告がなされた。が、資料が多かったため消化不良の感があり、教養教育・専門教育における留意点等を整理するまでには至らなかった。改善点として以下が挙げられる。

（１）全学教務委員会の直後に設定されたＦＤであったが、参加者が大変少なかった点が残念である。資料を、教務委員には事前配布しておいた方がよいかもしれない。

（２）ＰＲＯＧ自体についての説明がもっとあった方がよい。ＰＲＯＧに不案内な参加者もおられた。

（３）本学学生はリテラシーテストの「構想力」が相対的に低いので、この点を向上させるための教育実践事例の紹介が含まれているとよかった。

（４）医歯薬等では、専門家の基準集団との比較が望まれてきているため、項目に適切な重み付けをするなどして結果を報告することも必要であろう。

汎用技能には紙筆検査では評価できないものが多いことから、ＰＲＯＧをアセスメントに用いることの問題は多い。しかし、現段階ではこれ以外に余り選択肢がないことから、限界を踏まえた上で、日頃の学生の印象等と照らし合わせながら活用されることを願っている。

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
主査　入口 忠義

e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp　電　話：内線 2077